

情報処理センター長に再選されて

情報処理センター長 吉田 博

昭和58年4月に当時の計算機センター長を拝命し、2期4年間にわたりセンター長を勤めさせて頂いてまいりました。此の度、再度情報処理センター長を拝命し、その責任の重大さを痛感しています。

昭和58年4月に前センター長の武部教授よりセンター長を引き継ぎました時のシステムは、FACOM・M-170F（高速化機構付）で、主記憶容量8MB、ディスク容量7.2GB、TSS端末数40台で、城内キャンパス、宝町キャンパスおよび京都大学大型計算機センターと専用回線で結ばれていました。

昭和59年4月には、工学部キャンパス内に一般情報処理教育実習室を準備し、専用端末32台、プリンター2台を設置し、また、昭和61年10月には城内キャンパス内に専用端末20台、プリンター2台を設置した第2の一般情報処理教育実習室を開設しました。その間、昭和60年8月にはシステムをFACOM・M-360APに更新するとともに、主記憶容量を24MB、ディスク容量を10.7GBと増強するとともに、TSS端末を増設し、すべてを日本語端末としました。現在、約170台の端末が直接回線で結ばれ、情報処理センターは勿論、各キャンパス内の分室から利用できるようになっています。

また、NTTのN1ネットワークにも加入し、全国の大型計算機センターは勿論、学術情報センターおよび筑波大学学術情報センターを各端末から利用できるようになっています。

この4年間、処理需要の急速な増大と、処理の多様化により、機種更新による増強を上回る処理要求のため、つねに慢性的な飽和状態に陥っています。情報処理センターでは、このような状態を少しでも緩和するために、大型計算機センターおよび他センターでは見られない処理体系（KPF D処理）を確立し、利用者に便利なTSS処理機能を開発することにより、処理能率の向上、無駄な処理の解消に努め、中型計算機の最大限の効率的利用を図ってきましたが、教育実習を実施している時間帯には100台以上のTSS端末が同時に稼働し、各端末の応答が極端に悪くなり、2～3分も応答がない状態に陥ることもしばしば生じ、また、繁忙期には日・祝日を含めた24時間運転にもかかわらず、バッチ処理においては、ターンラウンド時間が中型ジョブで1～2日、大型ジョブで3～5日も要しており、研究利用に重大な支障をきたしています。

このような状態に対処するため、機種の更新のみならず、昭和61年8月にはTSSの応答を改善するためにキャッシュメモリー8MBを設置しましたが、なお不十分で、本年9月にはさらに半導体ディスク32MBを導入することになってはいますが、応答の改善はあまり期待できないようです。

このように、現レンタル料で可能な限りの最大のシステムと、センター職員の必死の努力にもかかわらず

ならず、夏休みに入った現在ですら、TSSの応答が極めて悪く、また、容量不足でジップが異常終了したり、必要なディスク容量が確保できないなどの混乱が生じており、本年度の繁忙期が今のうちから憂慮される状態です。

このような窮状を打開するためには、総合情報処理センターの設立以外に方法はありません。総合情報処理センターの設立に対する本格的な概算要求は、昭和59年以来大学事務局に対して行ってきましたが、取り上げられるには至りませんでした。昨年2月～3月に各部局長にお会いし、情報処理センターの窮状について御説明申し上げ、総合情報処理センターの必要性を御理解いただき、各部局長とセンター長連名で早急な総合情報処理センターの設立に関する要望書を昨年3月末、学長に提出させていただきました。その後、昨年5月には金沢大学将来計画検討委員会の下部組織として、金沢大学総合情報処理センター構想検討委員会が設置されるに至り、毎月委員会を開催して新キャンパスでの情報ネットワーク構想も含めた検討が続けられ、昨年12月に総合情報処理センター構想が学長に答申されました。さらに、本年4月の金沢大学将来計画検討委員会で、総合情報処理センター設立実務委員会を設置し、概算要求に向けて審議することになりました。しかし、昭和63年度の概算要求には間に合わず、63年度の概算要求は従来どうり情報処理センターで行うことになりました。

このような極めて困難な時期に情報処理センター長を拝命し、責任の重大さを痛感していますが、皆様方の絶大なる御支援をいただきまして、総合情報処理センター設立に向けて最大の努力をしていきたいと思っています。